

# 麺類を巡る旅

埼玉県・主婦  
堀江 憲子

生まれて初めて食べた麺類は、うどんだった。おそらく幼稚園に入ったころだったと思う。両親と一緒に外で食べるうどんは、いつも天ぶらうどんで、その天ぶらが海老天だったものだから、いつの間にか、私にとって「天ぶら」は海老天を意味するようになっていた。最初に食べた麺類がうどんだったのは、私が幼いころ大阪に住んでいたからだろう。銀行員の父が大阪に赴任していたため、家族で大阪にある社宅に住んでいた。母が社宅の近所にあるスーパーで買ってきた蕎麦があまりにまずかったため、同じ麺類でも、蕎麦は嫌いになった。変われば変わるもので、今では夫と深大寺から戸隠まで蕎麦を食べ歩くほどの蕎麦好きである。

麺類にあまり関心のない母とは対照的に、父は麺類が好きだった。食べ物に興味に関する限り、私は父の遺伝子を強く引いているらしい。小食ではあったが、美食家でもあった父は何処そこに美味しい蕎麦屋があると言って、都内の老舗蕎麦屋へ私を連れて行ってくれたことが懐かしい。

老舗の蕎麦屋にも行ったが、中でも、近所にあるTという蕎麦屋がお気に入りだった。私もTの蕎麦が好きで、よく一緒に食べに行っていたものだ。30代後半まで独身だった私を、父は内心では早く結婚させたかったに違いない。口数の少ない父が、面と向かって早く結婚しろと言うことはなかった。何でも少しずつ、いろいろと食べることを好む父ではあったが、3年前に他界した。今でもTへ行くと、店内の何処かに寡黙な父がいるように感じることもある。

父が亡くなった後に結婚した夫は、不思議なことに父と似ているところがいくつかある。一番似ているのは、蕎麦が好きなことだろうか。亡き父に代わって、今では私をいろんな蕎麦屋に連れて行ってくれる。

大阪時代のうどんに始まり、父と食べ歩いた老舗蕎麦屋、夫と食べ歩く各地の蕎麦屋と、私の人生は麺類を巡る旅と重なる。この幸せな旅が、これからも続きますように。

## 奨励賞